

# 平成30年度事業計画及び 収支予算の概要

## 血液事業特別会計



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 1. 平成29年度 主な取り組みと課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
献血者の安定的確保	若年層の協力基盤を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象年齢にあわせた普及啓発</li> <li>都道府県別の若年層目標数の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献血予約率を向上させるシステムの導入</li> <li>将来の必要献血者数の推計</li> </ul>
血液製剤の安全性向上	輸血による副作用を低減・軽減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな感染症対策</li> <li>新規製剤(置換血小板)の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HEV等の検査項目の追加</li> <li>新規製剤(置換血小板)の導入</li> </ul>
事業改善の推進	必要とする血液量を効率的に確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>400mL献血率等の事業目標値を目指した採血効率の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カイゼン活動の風土化</li> <li>あらゆる業務の棚卸と見直し</li> </ul>
健全な財政の継続	血液の需要漸減(収益減少)に対応した財政基盤を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種費用の削減</li> <li>施設整備の延期・凍結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政状況を踏まえた新たな施設整備計画の策定</li> </ul>

## 2. 平成30年度事業計画の方針

### 事業環境

- ・少子化による若年層人口の減少
- ・輸血の安全性向上へのさらなる期待

### 基本戦略

- ・将来の献血者層となる若年層の啓発を推進する。
- ・血液製剤の安全性向上に取り組む。
- ・採血から供給に至る事業効率を改善する。

### 主な施策

- (1) 献血者の安定的確保
- (2) 血液製剤の安全性向上
- (3) 事業改善の推進
- (4) 健全な財政の継続



日本赤十字社

けんけんちゃん

# 3. 平成30年度の事業概要

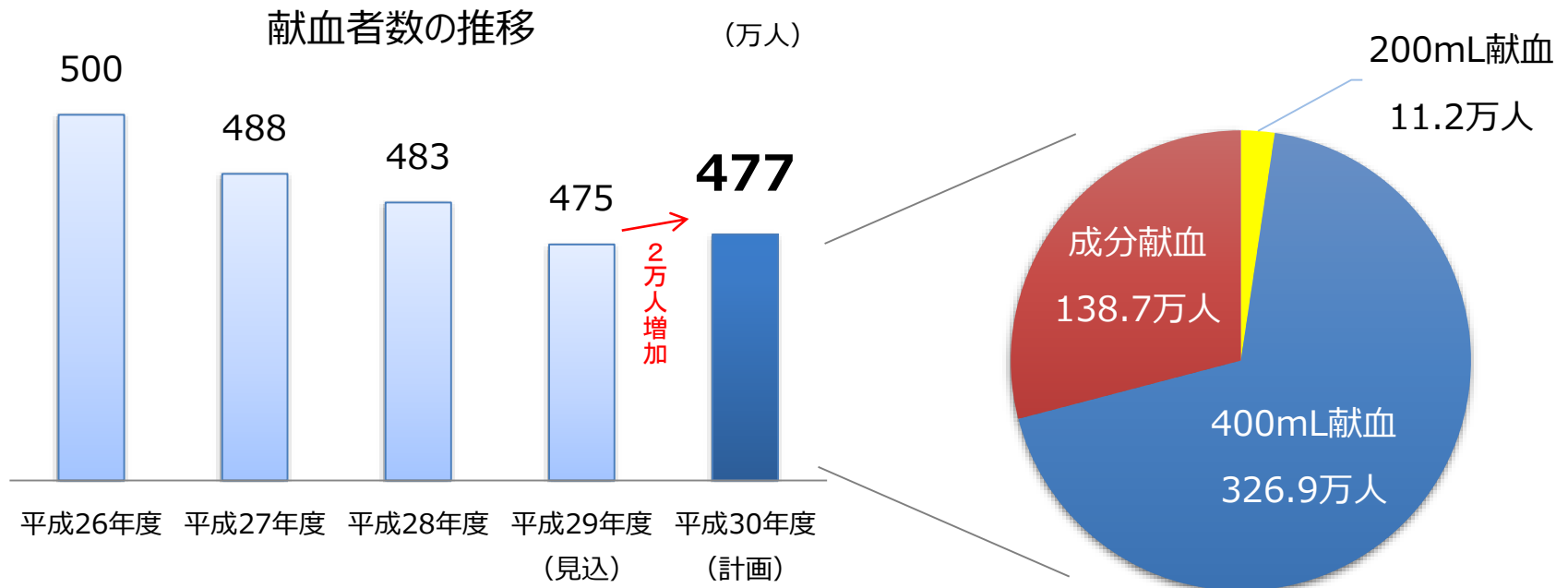


477万人のみなさまに献血のご協力をいただき、  
1,764万本の輸血用血液製剤を医療機関にお届けします。

## 4. 各施策の取り組み

### (1) 献血者の安定的確保

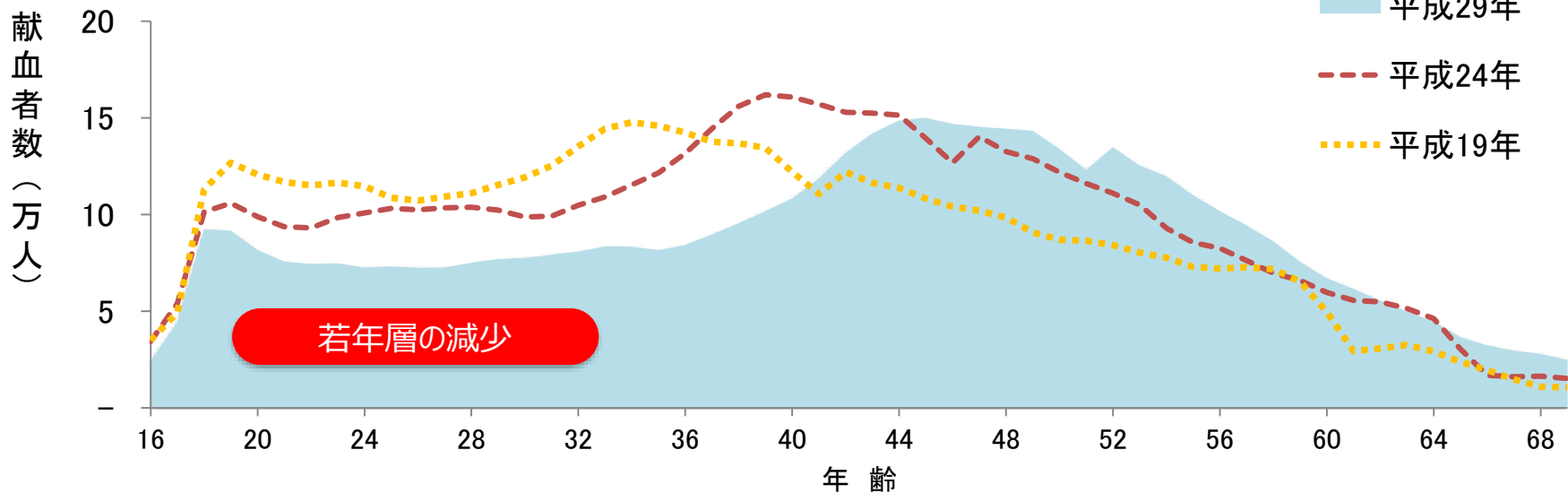
- 医療機関の需要に見合った血液量を過不足なく確保する。
- 400mL献血、成分献血を中心に、平成29年度より2万人増の477万人を計画している。



## 献血者の年齢構成

- 人口動態の推移等により、若年層が減少し、中心層の年齢が高くなる傾向にある。
- 将来の安定的な血液確保のために、若年層の協力基盤を強化する。

献血者の年齢分布(16~69才)



# 若年層の協力基盤強化に向けた取り組み

キャンペーン、イベント展開



年代別の取り組み

目標及び  
成果

10  
代

- ◆ 小・中・高校における献血セミナー
- ◆ 高校献血の推進

20  
代

- ◆ 大学、専門学校献血の推進
- ◆ 学生ボランティアによる献血セミナー

30  
代

- ◆ 企業における社員研修や社内広報による情報提供の実施

安定的な献血者確保

都道府県別に年代別目標数を定め、進捗管理

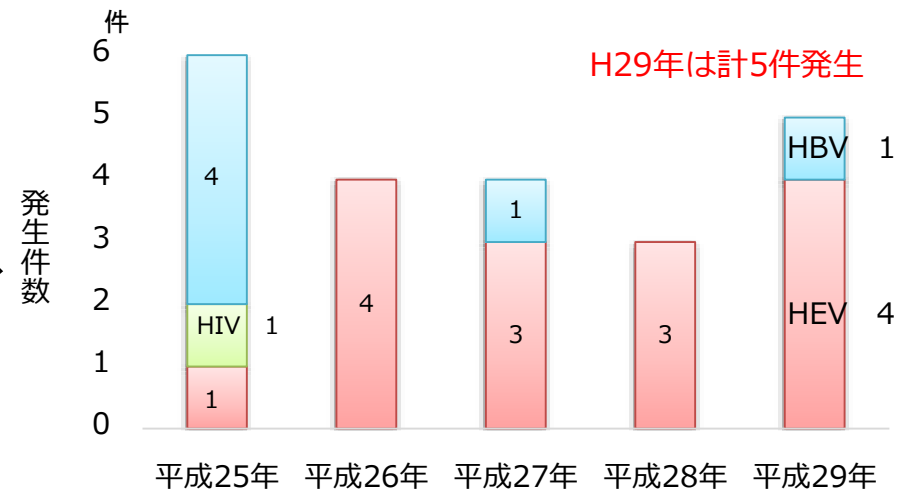
## (2) 血液製剤の安全性向上

- 安全性については、問診、核酸増幅検査(NAT)等により、輸血によるウイルス感染を含む副作用発生を限りなく低減している。
- 輸血患者は年間約100万人と推計されるが、B型肝炎ウイルス(HBV)やE型肝炎ウイルス(HEV)の輸血による感染が年間数件発生※している。

※HBVは検査の検出限界以下の期間による感染

- 平成30年度は、全国的な検査を実施していないE型肝炎ウイルス(HEV)対策の準備を進める。

輸血によるウイルス感染症例の推移





### (3) 事業改善の推進

- 全部門において、事業の効率性を追求する取り組みを進める。

#### 採 血

- ✓ 必要とする血液量を効率的に確保
- ✓ インタビュアーによる問診の実施

#### 検 査 製 造

- ✓ 業務量の平準化にむけた輸送体制の見直し
- ✓ 自動化機器導入による工程の省力化

#### 供 給

- ✓ 医療機関の血液製剤発注システムの利用促進
- ✓ 定期配送便による納品割合向上

#### 管 理

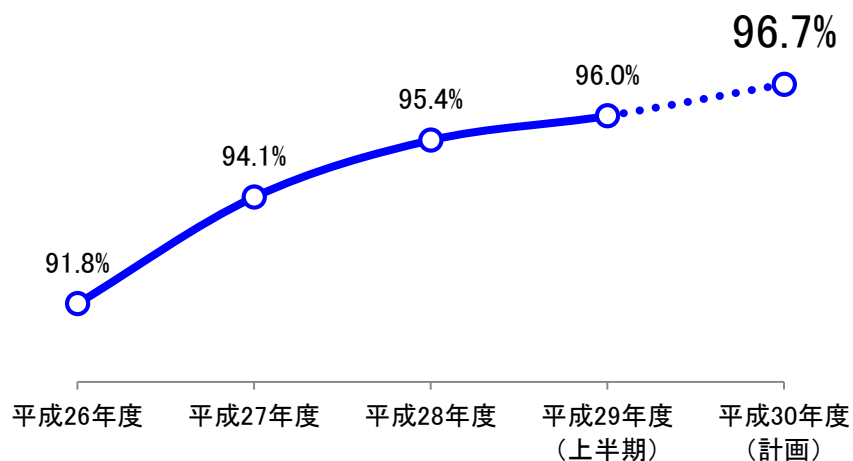
- ✓ 全国共通の定型業務（給与事務等）の一元化
- ✓ 将来過剰となりうる施設、設備等の縮減

事業の効率性追求

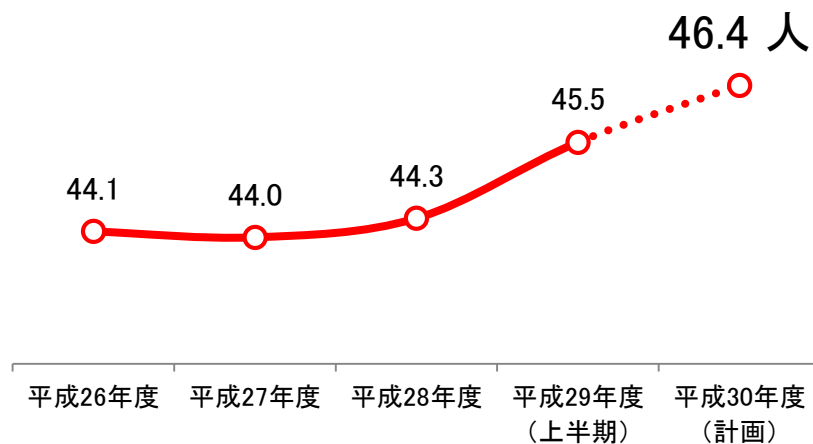
## 必要とする血液量を効率的に確保

- 献血には、ご協力いただく方の健康を考え、年齢・体重等で採血量を定めているが、400mL献血率の向上等、基準内で適正かつ効率的に血液量を確保する取り組みを進めている。
- また、献血受入設備（献血ルーム、移動採血車等）を最大限に活用するための数値指標を定め、進捗管理している。

### 400mL献血率の推移



### 移動採血車 1台あたりの献血者数



## インタビューアーによる問診の実施

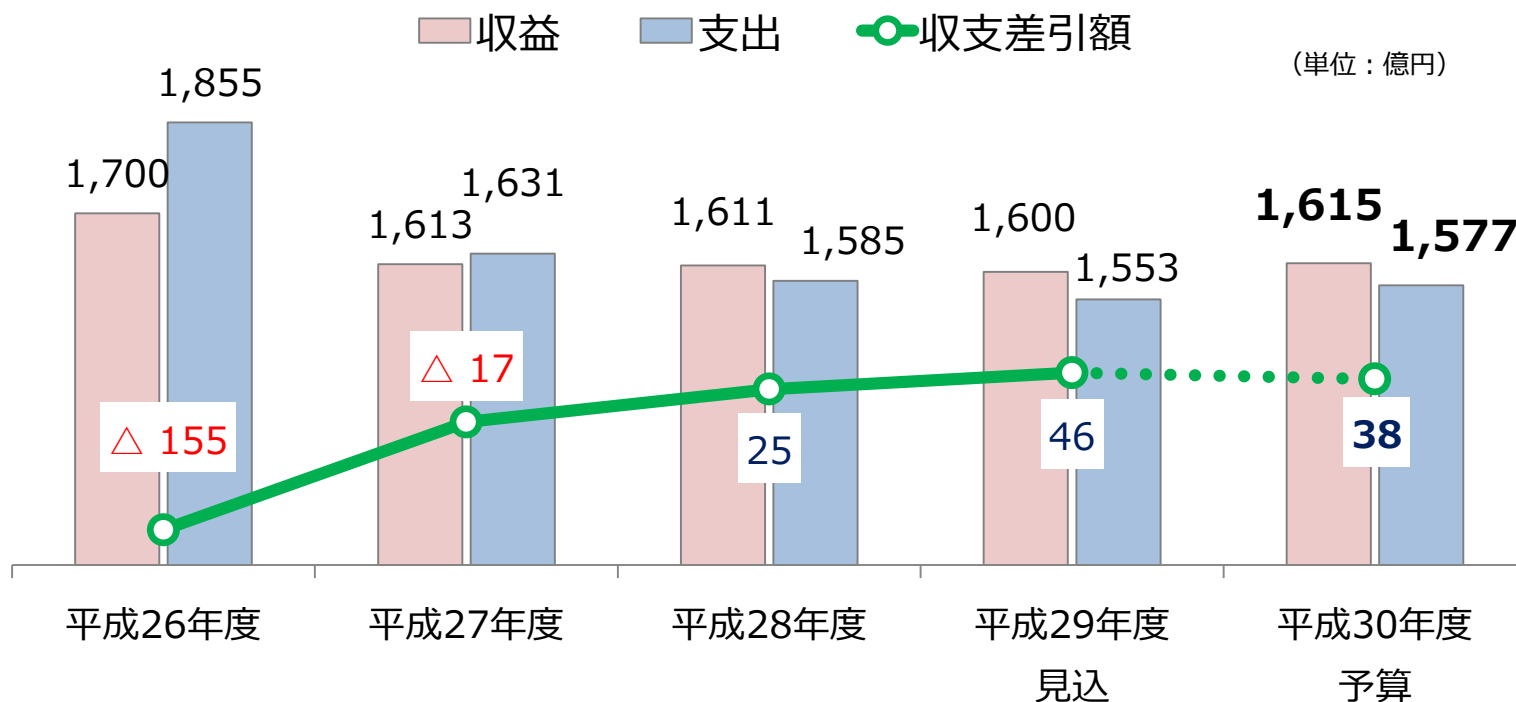
- 献血前には、献血申込者の健康状態を確認するために、検診医師による問診を行っている。
- 平成29年度より、十分な確保が難しい検診医師の負担軽減等を目的として、専門知識・技能を備えたインタビューアー(看護師等)を育成し、検診医師を補助する体制の検討を進めてきた。
- 平成29年度に一部会場で試行した結果、適正かつ効率的な業務が推進できたことから、来年度から実施会場を拡大する。



(インタビューアーが検診医師を補助)


## (4) 健全な財政の継続

- 平成27年度まで収支悪化していたが、経営改善の取り組みにより、28年度に黒字へ転換した。
- 引き続き、安定経営に向けた取り組みを継続する。



## 安定経営に向けた取り組み

- 効率的な採血の推進による経費、材料費の削減
- 職員数の適正化等による人件費の削減
- 輸送ルート等の物流体制の見直しによる経費削減 など

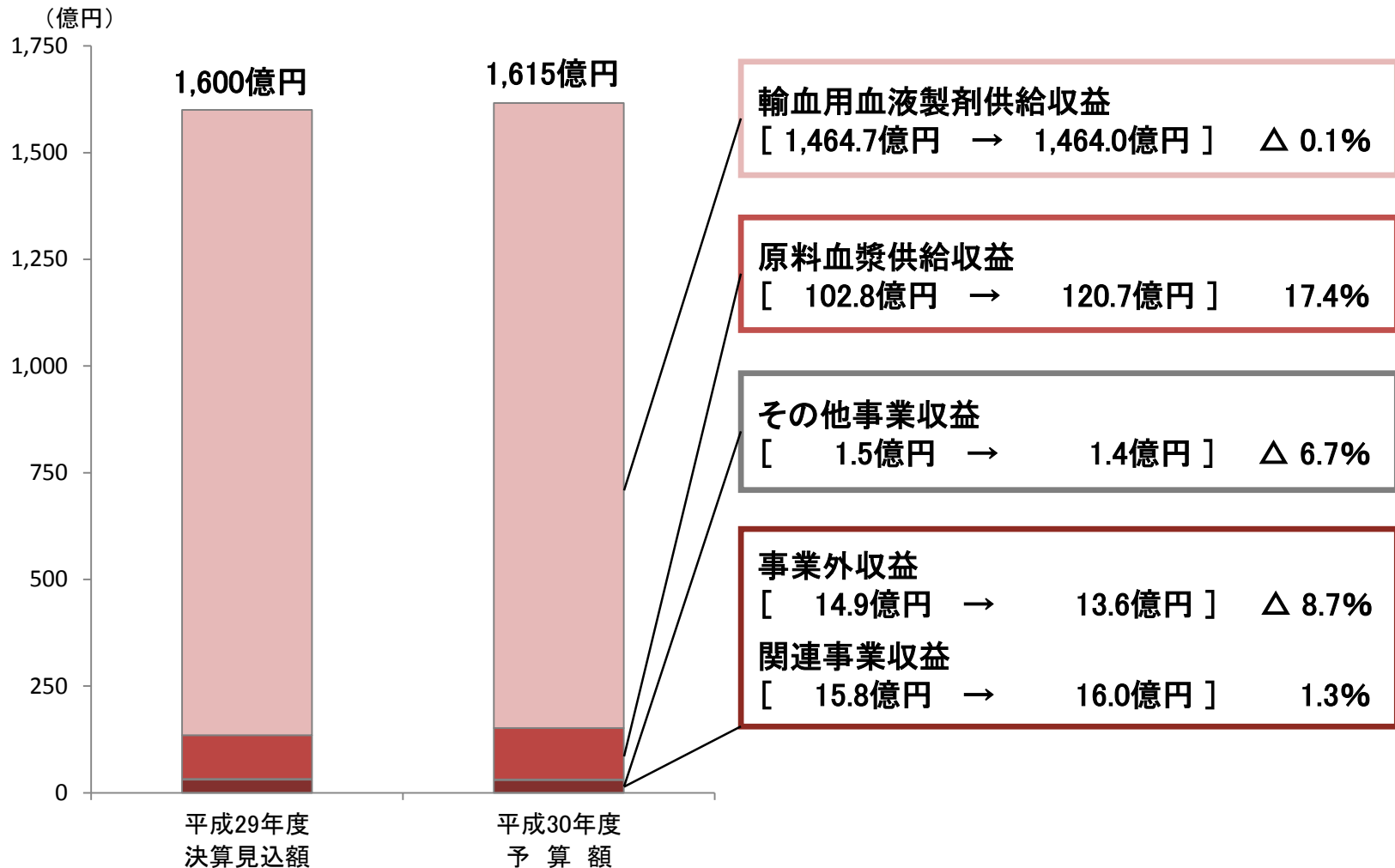


### 将来の必要投資に備えた資金を確保

＜平成30年度以降に想定される投資＞

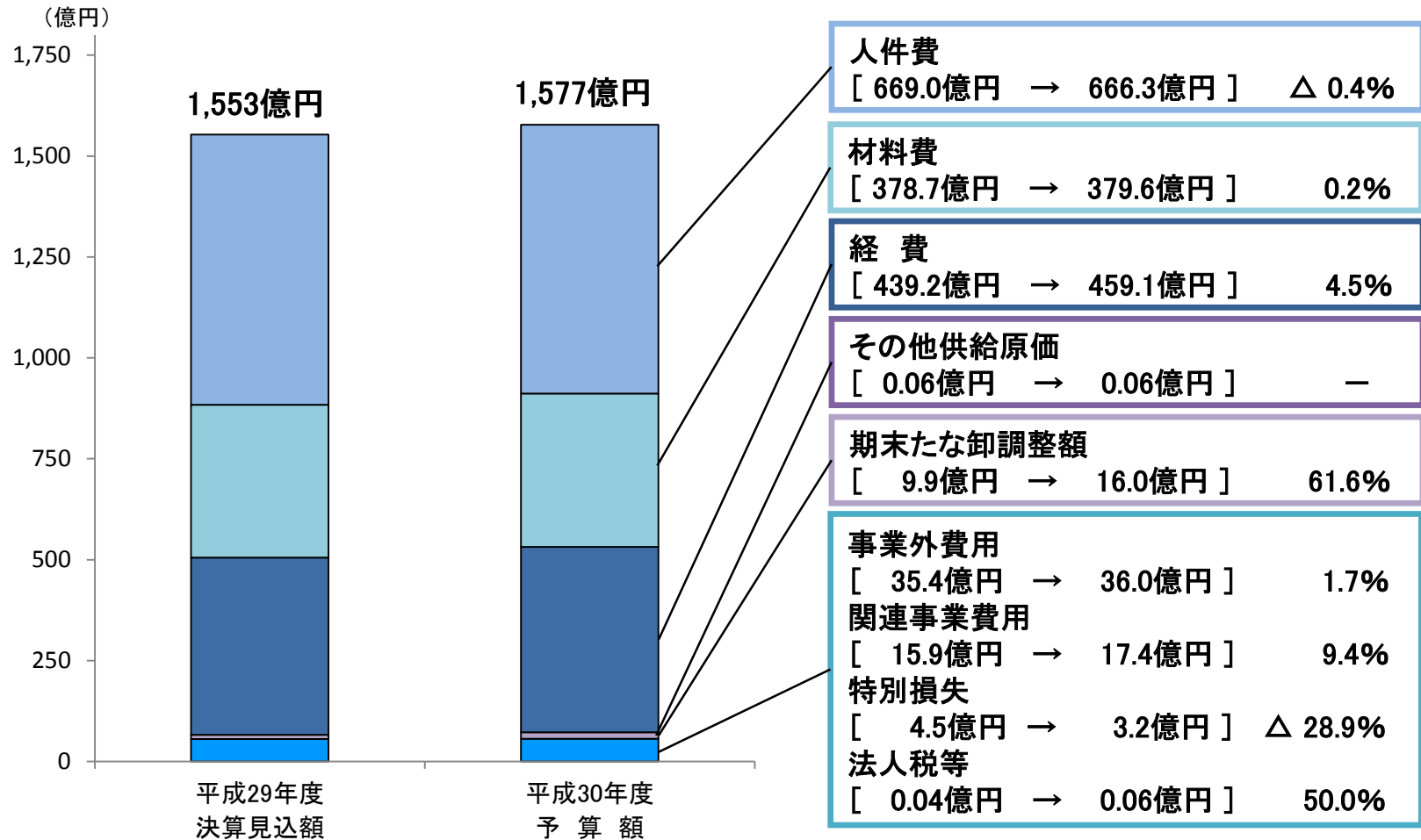
- ✓ 次世代感染症検査システムの導入
- ✓ 築40年以上を経過した血液センターの更新(または大規模修繕)
- ✓ 血液事業情報システムの充実に向けた改修・更新
- ✓ 国民の健康増進に貢献する新たな事業の構築

# 5. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



	平成29年度決算見込	平成30年度予算	増減額	増減率
収益的収入合計	1,600億円	→ 1,615億円	15億円	0.9%

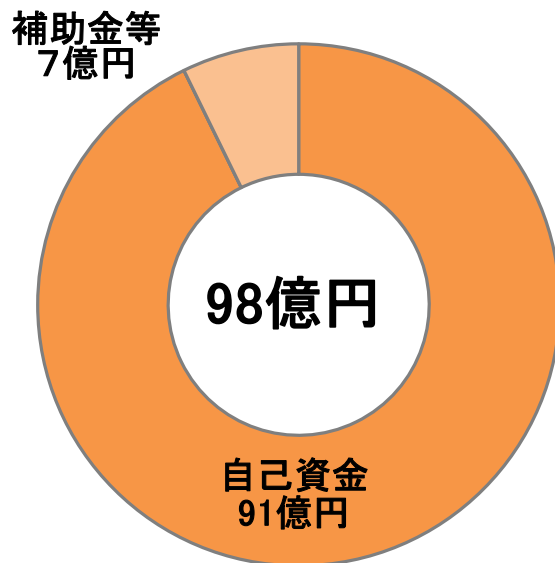
# 6. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



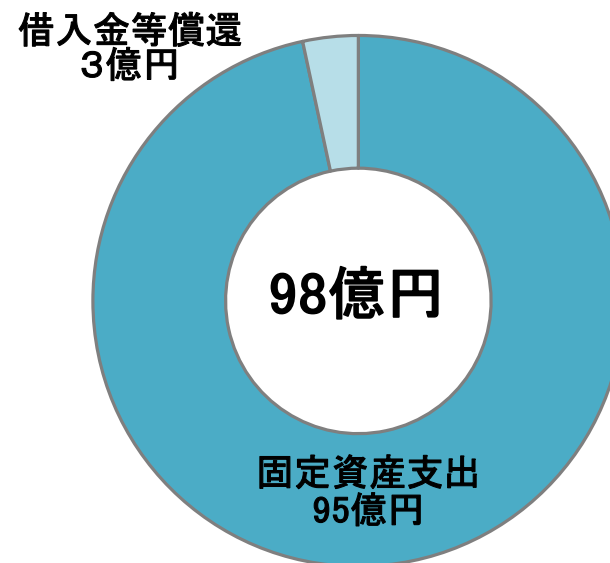
	平成29年度決算見込	平成30年度予算	増減額	増減率
収益的支出合計	1,553億円	1,577億円	24億円	1.5%
収支差引額	46.9億円	38.0億円	△8.9億円	

# 7. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし

【平成30年度収入】



【平成30年度支出】



固定資産支出

内 容	金 額
血液センターの施設整備・改修	35億円
成分採血装置、全血採血装置、血液保冷库等の機械整備	31億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	10億円
血液事業情報システム改修・データセンター更新、複数回献血クラブシステム改修、 全社統合情報システム構築、造血幹細胞移植支援システム構築 等	19億円